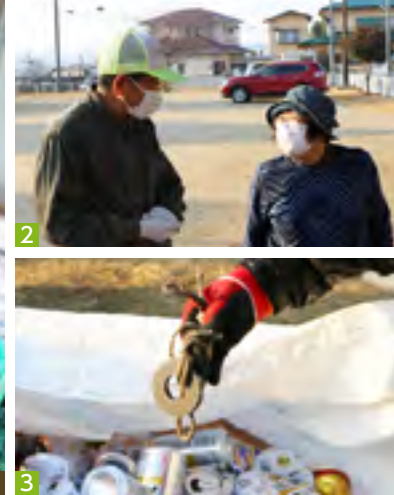
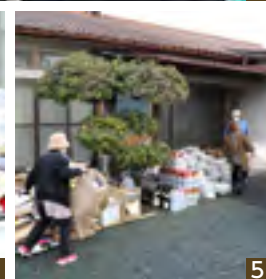




合志市南陽区では毎回約30人の住民が集まり、
会話をしながら楽しく作業を進めている



1・2・3 合志市南陽区の「資源物あつめ隊」は偶数月の第1日曜日の早朝から作業を行っている。ラベルの表示を見たり、磁石を使ったりして資源ごみに他の物が混ざっていないか確認。作業の合間には笑顔で話す姿も

4・5・6 菊池市福本一区のむつみ会と六十会は毎月第1火曜日の朝、公民館の前で資源ごみを回収。活動後はその場に椅子を並べてお茶会が始まる

資源化のために 正しい分別を

各地で進む資源ごみ回収。分別の活動は意識の向上だけでなく地域活性化にもつながっています。

進む地域交流、上がる分別意識

地域の取り組み

合志市南陽区では偶数月の第1日曜日、地区のボランティア団体「資源物あつめ隊」が、資源ごみの回収にいそしんでいます。「この音はビンが混ざってるね」「古紙のコンテナに段ボールが入ってるよ」。各家庭の前に出された資源ごみを回収し、手際よく分別していきます。

「異物混入は回収業者も困るし、せっかく資源ごみを集めるなら気持ちよく分別したいですね」と話すのは代表を務める永野寛さん。「蛍光灯やガス缶などの危険物が混入していることもあるので気を付けて作業をしています。この活動が地域の分別意識の向上につながるとうれしいです」と笑顔を見せます。

続けることで意識が変わる

菊池市福本一区では毎月第1火曜日の朝、むつみ会の皆さんが資源ごみの回収に取り組んでいます。代表の水上美代子さんは「20年以上続いていて、いつ始まったのか分からないんですよ」と話します。

数年前からは60歳以上の男性で作った六十会（瀬上光星代表）も加わっています。「活動を続けることで分別に詳しくなりました。毎月たくさん資源ごみが集まり、活動が浸透してきていると実感しています」と水上さんは続けます。

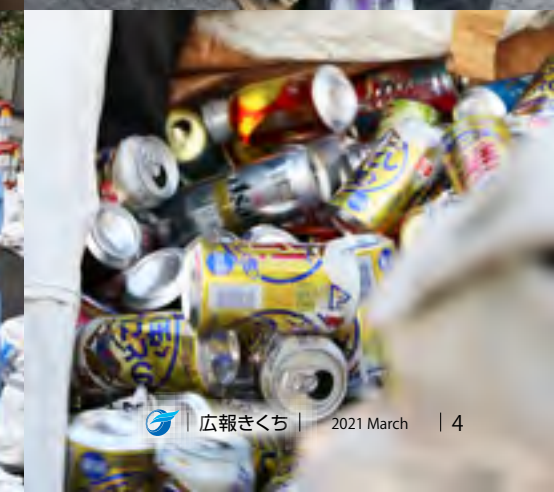
活動の中で会話が弾み、ストレス解消にもつながっているといいます。「月1回、みんなの元気な顔を見て会話を楽しんでいますよ。会員も募集中です」

分別ルールを守って、ごみを削減

ごみを資源にするための第一歩



生活する上で毎日発生するごみ。分別をきちんと行うことで、ごみは資源になり、地球環境の保護につながります。各地で広がる分別の取り組みや4月から一部変更（泗水地区のみ）になるごみ出しの分別方法について紹介します。



資源物あつめ隊代表
永野 寛さん(合志市)

活動のきっかけは “もったいない”

子ども会の休止で資源ごみの回収を中断していましたが、地域住民の“もったいない”という気持ちが高まり、平成28年に有志で団体を発足し活動を始めました。集まってコミュニケーションがとれる良い機会にもなっています。



六十会代表
瀬上光星さん(菊池市)

分別意識の高い 福本一区を目指して

むつみ会から「手伝ってほしい」という話があり、活動に参加しています。続けることで分別の意識も高まりました。地域の皆さんもきちんと分別してくれるので助かっています。今後もお互い協力して続けていきたいですね。

ルールを守らず、乾電池が入ったまま捨てられたおもちゃ



私たちができること

ルールを守ることが、資源化につながる

一人一人が意識することで、ごみは資源に変わります。大切なことはルールを守り続けていくこと。資源化に取り組む専門業者に話を聞きました。

近年は法律やルールの変更など、ごみ自体の多様化も進んでいます。「出したごみが何になるのか、どういう作業をして資源化に取り組んでいますか。」と話すのは、菊池環境保全組合の施設管理を受託している有価物回収協業組合石坂グループの岡本悟さん。大津美化センター長としてごみの資源化に取り組んでいます。

継続できる分別ルールに

広域で進めているごみ処理

菊池郡市では、菊池市、合志市、大津町、菊陽町の2市2町でごみ処理を行う「菊池環境保全組合」を設立し、共同で施設の運営を行っています（広報1月号参照）。ごみ処理を広域で行うことで環境負荷の低減やごみ処理費用を抑えることにつながり、効率的な資源化を進めることができます。

しかし、正しく分別できていないと施設の故障や作業の間が増え、資源化できないこともあります。「ごみの資源化は決められた分別ルールを守るだけでも進みます」と話すのは、菊池環境保全組合の施設管理を受託している有価物回収協業組合石坂グループの岡本悟さん。大津美化センター長としてごみの資源化に取り組んでいます。



1・2・3_ 翔陽高校の馬術部では、毎年12月に部員が近隣の住宅を訪問し資源ごみの回収を呼び掛けている。校内で出た新聞紙や段ボールなどを回収し、保管する倉庫を馬場の隣に設置
4・5・6_ 菊陽中学校の美化委員会では、先輩の活動を引き継ぎ燃やすごみとプラスチックごみの分別を行っている。ごみを収集するときは、かさばらないように空気を抜く



学校の取り組み

教育現場から分別意識の向上へ

ごみについて学び、実際に行動することで、子どもたちの意識向上にもつながっています。

分別が当たり前の環境に

部員から地域へ

菊陽中学校では教室にごみ箱を2つ設置し、燃えるごみとプラスチックの分別を実施。何年も前に生徒会が始めた活動が定着し、現在も続けられています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため現在は教師がごみを回収していますが、コロナ禍以前は美化委員が回収を行っていました。

生徒会担当の岩切奈菜教諭は「生徒自ら集めることで、自分たちが出しているごみの量に気づき、分別の意識が生まれます。今後も続けてほしいですね」と話します。「本校では入学時に分別の説明も行っています。実際の行動を通じて、分別が当たり前の環境にしていきたいです」と笑顔を見せました。

翔陽高校馬術部では、毎年12月に高校周辺の住民と協力して資源ごみの回収を実施。チラシは部員自ら配布しています。毎年2トトラック2台分もの資源ごみが集まり、活動が定着してきていると顧問の中川裕介教諭は話します。「20年以上続く活動で、近隣住民の中には回収日以外にも資源ごみを提供してくれる人もいます。活動を通して生徒たちにも分別の習慣が身に付いていますよ」。

馬術部は学校内で出た新聞紙や段ボールなどの資源ごみも回収しています。「他の生徒へも分別を呼び掛けているようです。部員から他の生徒、家族や地域へと、分別の意識が高まってくるといいですね」



有価物回収協業組合
石坂グループ
大津美化センター長
岡本 悟さん

源化が進んでいるのかを意識してもらえとうれしいです」と笑顔を見せます。「継続できる分別にする必要もあると思います。機械で行える部分は機械で行い、減らせる負担は減らしていきたいですね。気を付けてほしいのは分別ルールを守ること。他の人が行った分別が無駄になるかもしれません。ごみを出す

ときには、改めて家庭ごみ収集カレンダーやごみ分別冊子などを確認してください」

自分ごととして ごみと向き合おう

分別ルールは効率的に資源化できるよう、また、継続して分別できるよう検討しながら作られており、4月からはより分かりやすい分別へと一部変更を行っています。混ざればごみ。分ければ資源。人ごとではなく自分ごととして、ごみと向き合ってみませんか。

プラスチックの分別に迷ったら

プラスチック製ですか	はい ↓	いいえ →	材質・形状別に分別
プラマークはありますか	はい ↓	いいえ →	燃やすごみ
水ですすいで汚れが落ちますか	はい ↓	いいえ →	燃やすごみ
資源物J / プラマーク製品			



水ですすいでも油汚れや調味料などが落ちない場合は、燃やすごみに出しましょう。

〳 泗水地区は4月1日(木)から 〳 分別が一部変更になります

分かりやすい分別と効率的なリサイクル推進のため、分別が一部変更になります。主な変更点は以下の通りです。その他の詳しい変更内容は、家庭ごみ収集カレンダーやごみ分別冊子を確認してください。※菊池・七城・旭志地区は変更ありません

【問い合わせ先】
環境課 ☎0968(25)7217
家庭ごみ案内ダイヤル ☎0968(25)1116

🗑️ プラスチック製品

プラマーク表示あり	プラマーク表示なし
資源物J* プラマーク製品 (プラスチック製容器包装)	燃やすごみ

※白色トレイや発泡スチロールも「資源物J」に一緒に出すことができます

🗑️ 小型金物、小型廃家電

分類が「小型金物、小型廃家電」から「不燃物」になります。他の不燃物と一緒に出すことができます。

🗑️ 特定品目

スプレー缶やライター、チャッカマン、ボタン電池などが追加になります。

🗑️ 分別方法はホームページにも掲載

ごみ分別冊子のほか、各自治体のホームページからも確認ができます。

ごみ分別冊子 二次元コード→

